

～幼保小の子どもの学びと育ちをつなぐ～

架け橋通信



第7号

令和6年5月発行

京都市教育委員会 学校指導課

幼保小の架け橋プログラム担当

TEL:075-222-3746

幼保小連携・接続主任が令和6年度より18条主任に位置づけられました。

- この2年間の調査研究事業により、幼保小の架け橋プログラムの成果として、子どもの主体性や意欲が高まる、指導者の保育や授業の改善の意識が高まるなどの声があげられました。また、幼保小連携・接続主任の設置により、就学前施設との連絡・調整がスムーズになる、校内での幼保小の架け橋プログラムの理解・周知が促進されるなどの成果も見られました。
- これまでから、スタートカリキュラムの実施や半日入学の実施など、幼保小連携・接続に取り組んでいただいているところですが、京都市架け橋会議での協議等も踏まえ、**本市における幼保小の架け橋プログラムのねらい**を下記のように定め、**令和7年度から全市立小学校で、原則、校区内の就学前施設を対象とし連携・接続に取り組む**こととしており、現在準備を進めています。

京都市における幼保小の架け橋プログラムのねらい

- 子どもの姿を中心として語り合う幼保小のコミュニティの構築
- 主体的・対話的で深い学びの実現に向け、架け橋期（5歳児から小学校1年生の2年間）の教育・保育の質の向上を図る

各校におかれては、下記に紹介する参考資料等も活用しながら、架け橋プログラムの必要性についてご理解いただき、校内の幼保小連携・接続の推進に取り組まれますようお願いいたします。

れっつ ちゃれんじ!!

今からはじめる 幼保小の架け橋プログラム !!

令和7年度からの全市立小学校での就学前施設との連携・接続に向けて、令和6年度から準備を始めましょう!

- 連携・接続に関する校内の取組を始めましょう。

校内研修で幼保小架け橋プログラムの意義や重要性、架け橋期の発達について全教職員が理解しましょう。スタートカリキュラム、非認知能力の育成、幼児期の育ちや学びを意識した授業実践などについて学びましょう。

- 幼保小連携・接続主任研修 動画配信 5月15日 SMART POTALに掲載

幼保小の架け橋プログラムの必要性や参考事例、主任の役割や本市の今後の取組等について説明しています。

研究ブロック 「2年次報告動画」からのトピックス

【御所南小ブロック】



「にじっこ」の研修の様子

【教職員がつながる組織体制の構築】

- 就学前施設の保育者同士が集まって、子どもの姿や、保育内容、悩みなどを話し合い、架け橋期のカリキュラムの検証・改善を図る「にじっこ」という組織を立ち上げた。この組織により、保育者同士人間関係が深まり、事例検討を通して互いの保育内容について、語り合うことができるようになった。また、並行して、幼保小の教職員がつながる「かがやきたい」という組織も立ち上げ、教育の質についての話し合いを深めている。

【下京雅小ブロック】



生活科「秋みつけ」での交流の様子

【交流できる園が増え、地域の子とも同士の交流が広がる】

- 今年度新たに本願寺中央幼稚園の5歳児が交流に参加し、京都市立楊梅幼稚園の5歳児と下京雅小学校の1年生の3校園で、生活科「秋みつけ」の単元で交流した。教員・保育者が梅小路公園で事前に打ち合わせをし、互いの交流のねらいや思いを話し合い、相互理解を図れたことで、「遊び」と「学び」、保育と授業とがつながってきている。教員・保育者のつながりが、接続を支えると実感している。

【竹田小ブロック】



R6. 4. にこにこルームの環境設定

【一人一人の子どもや保護者に応じた関わりが安心感に】

●幼保が就学に不安を抱える子どもの実態を小学校に伝え、小学校ではその不安な気持ちに継続的に寄り添い、個に応じた配慮をすることで、子どもが安心して、意欲をもって学習に取り組む姿につながった。保護者にも幼保小の教員・保育者が丁寧に関わることで、保護者が家庭学習に関わるなどの変容が見られた。子どもがより安心できるよう、R6年度は幼児期の遊びの環境を生かし、1年生が安心できる環境〈にこにこルーム〉づくりを進める。

研究ブロック(御所南小学校ブロック・下京雅小ブロック・竹田小ブロック)の2年次報告動画は、
[スマートポータル](#) → [ピックアップ](#) → [幼保小の架け橋プログラム事業](#) からご覧いただけます。

『家庭と園で育もう 幼児期から小学校1年生への育ちと学び』を活用しよう



全市立幼稚園の在園児や未就園児の保護者に配布している子育て支援の冊子を、全小学校にも2冊ずつ配布しています。(4月19日付(Y909A1))

小学校教育を見通しながら、豊かな心と学びを育むうえで幼稚園と家庭で大切にしたいポイントや具体的なアドバイスを、子どもの遊びや生活に焦点をあてて紹介しています。また3歳児～5歳児の発達の具体的な様子や幼児期の学び、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」、そして、小学校生活スタート時の様子などについて掲載しています。

幼児期の遊びや生活、学びや育ちについての校内研修会で活用してください。1年生担任の先生や幼保小連携・接続主任の先生はもちろん、全ての先生方の架け橋期の教育の参考に!

[【HPにも掲載:京都市教育委員会→学校教育→幼小接続の取組\(幼保小の架け橋プログラム\)→「家庭と園で育もう」について】](#)

(小学校でも就学時検診時など、保護者に配布される場合、必要部数を学校指導課 谷口まで Tel:222-3806)

教育関係者のみなさん!

「非認知能力」を育む乳幼児 小学生の子育て講座2に行こう!

保育・
教育の
ヒントを
Get!

講演 楽しもう!子どもの「はじめの100か月」 ~未来を想像的に生きる子どもを育むには2~

講師 京都教育大学 教授 古賀 松香先生

対象 乳幼児の保護者、**就学前施設・小学校の保育・教育に関わる方等**

日時 令和6年6月29日(土)10:00~11:15 開場 9:40

場所 京都市男女共同参画センター ウイングス京都 イベントホール

申込 6月5日(水)~6月20日(木) こどもみらい館 HPより(先着順)

詳しくは、[京都市教育委員会HP](#)をご覧ください。[[京都市 子育て講座](#)🔍]



コラム

なかにしサンの 幼分補給

スタートカリキュラムの算数の授業を見てきました。柔軟な時間割ということで20分。新しい算数の教科書はスタートカリキュラムに適したもので「仲間あつめ」でした。メダカやハトやつくし等のカードを一枚ずつもらい、同じカードをもらった友達が集まり名前を伝え合うことをした後、教科書の絵の仲間を○で囲む学習をしていました。A君はハトやつくしを○で囲みながら、旗を持った見守り隊のおじさんを見て「おじさんの仲間いいひんやん」とおじさんを囲み、「信号仲間や」と二つの信号を囲み、道路の中央の破線にも気づき「道路仲間もOK」と言いながら囲み、「みんな仲間じゃないか」とつばやきながら、楽しそうに鉛筆を持って○で囲みました。最後に手をあげて先生に当ててもらい学校を囲みました。これも想定外だったかもしれないですが、先生は「一つだけのものも見つけたんだね」と褒めてくださいました。厳密に言えば、算数的にはどうか?ですが、1年生3日目のこの時期、私たちは、「幼稚園あるある」で、想定外も認め「みんな仲間じゃあないか」と言えるA君はいいなあと思うのです。今、引き出すのは「安心感」や「学習への意欲」であってほしいと思います。

中西 昌子(なかにし しょうこ)



京都市教育委員会 学校指導課 参与
市立小学校教諭、幼稚園教諭・教頭、
竹田幼稚園長、市教委首席指導主事
を経て、平成三十年から現職。

